

こくろろ秋田

組織拡大に全力を！

第76回地本定期大会開催

秋晴れの11月6日、秋田市くらしと労働会館で国労秋田地本第76回定期大会が開催されました。

高橋毅副委員長の開会あいさつで始まり、代議員役員等26名中20名の出席を確認し、大会の成立が宣言されました。

議長には、総合車両センターの高橋誠代議員が選出され「コロナ禍で収入が減っている中、コストダウンが会社で声高に叫ばれ、本当は必要などころまでカットされ安全がおろそかにされないか危惧。国労としてどう取り組むのか、工



場として安全な車両の提供を目指すしなければならぬ。技術継承に問題があり心配している。20年ぶりの代議員参加なので精いっぱい務めたい。」との挨拶がありました。

◇地本佐藤委員長挨拶(別掲)

◇来賓はコロナ対策でメッセージ対応とし、高橋芳美執行委員がメッセージを紹介。

◇唯一の来賓、国労東日本本部渡辺副委員長から

「2年ぶりの秋田。先日行われた総選挙では自公が安定多数を占めたことは残念。自民党は15減、秋田も2区で野党共闘が勝利している。野党共闘について意義を再認識しよう。



年末手当の交渉中だが、会社は「赤字だ赤字だ」と言いながら、会社の資産は増え、大型開発では品川地区5千億円投資。定期昇給

国鉄労働組合
秋田地本本部
秋田市 中通
7-2-21
☎018-832-3775
発行責任者 佐藤浩一
編集責任者 編集部

係数を半分の「2」にするなど社員に犠牲を強いているのが許されない。

「柔軟な働き方」は、東日本全体で5支社が提案をしたが、営業統括センター設置については安全に問題ないか、サービス低下にならないか？運転士が乗務する前に駅で仕事をしに行く？専門的な仕事が多いJR職場になじむのか？これから職場での意見を出して団体交渉に向けて取り組んでほしい。

組織拡大、待ったなし。様々な取り組みで若い人たちの気持ちをつかんで、組織拡大を身近なものとしてとらえて欲しい。」

◇書記長が経過報告、運動方針を提案。

【質疑応答】

◆菊地代議員(貨物秋田分会)

分会組合員5名、12月に一人退職予定、秋田臨海鉄道が解散で臨海鉄道から社員が入ってきた。年齢も若い人から年配まで幅広い、職場は人が余っている、休みは取り放題。若い人はいろいろ将来を考えている

組合活動は活発には出来ていない。何とかしたいとは思っている

が成果が出ない。
◆若林代議員(秋田工務分会)
設備の仕事をしているが、女性社員の設備の工事が多くなっている。

組合活動について若い人に話をしていくが食いついてこない。社友会に入っている若い人は、社友会月1回の会議が嫌なようで、縛られない状態が希望。インパクトがあれば話に乗ってくるのかな。職場の再編が進んでいる。新幹線部門、在来線部門、電気と給電など。

◆吉田代議員(秋田連合分会)



組合員退職時に送別会出来ずに残念。
若者とのコミュニケーションが得意の船木書記長が退職予定。

国労掲示板の情報を社友会の若い人が見ていた。改めて情報が大事であると認識。

企画部門の仕事が駅に下りてきている。会社の掲示板には働き方改革の情報が多い。何でもかんでも押し付けられている状況。物が言えるのが組合の存在意義、地本の役員だけが会議に参加、現場の組合は俺知らね、という感じではないか。現場の社員と一緒に悩み苦しむのが大事ではないか。

◆後藤代議員(横手連合分会)
組合事務所は10月27日に無事退去終了。萩原さんに感謝の気持ちを込めて花束贈呈。
横手駅のみどりの窓口が廃止された9月はコロナでお客さんが少なかったが、10月からお客さんが増えてきている。一人当たりの所要時間が増加している。窓口だったら3分で済むものが10分以上かかる。営業統括センター事務所は運輸区か？

◆堀井代議員(秋総車セ支部)

10月18日に入場車両が少ない日に年休取得徳穂日とすることが提案された。工場の非稼働日とするとのこと。非稼働日について統一した対応が出来るようにして欲しい。賃金実態調査は回収率90%以上、勤続年数平均41年。生要額が要求額に反映されていない。職場代表選挙で前回は国労ユニオン東労組で統一候補を出したが、今年は東労組が単独で候補を出したため、社友会が代表となった。

◆千葉書記長(北奥羽分会代表)

営業統括センターで東能代駅と東能代運輸区統合の提案あり。運転士車掌試験が廃止、現場長の匙加減で推薦が出来る。運転士研修の2名中1名が追試験をしても不合格ですぐ駅に転勤させられた。現場長が支社に謝罪しに行つたよう。現場長の任命責任が問われる事態に。不合格は秋田支社始まって以来の出来事らしい。東日

本全体では10名ほど落ちたらしい。制度に問題があるのではないか。

【回答】東日本本部渡辺副委員長「賃金実態アンケートの生要求、上に上がっていくとかなかなか生要求額になっていない現状はある。現場の声を集約し、本部への激励が必要。車掌研修追試で不合格という前代未聞の事態発生、やる気が無い人が募集に応じたのか？ジョブローテーションがうまく進んでいない証ではないか。」

【回答】宇佐美書記長「年休懲の件は人事と話したが、あくまで懲罰であり強制ではない。年休を取るか取らないは個人での判断となる。会社に出ても非稼働日なので、他の作業になるだろう。食堂も開いていないし。他の工場では場内掃除などをやっているようだ。」

【書記長集約】

様々な業務の委託化が毎年進んでいて仕事安全等に不安を感じる。組合組織率低下が要因と言える。貨物会社にとって鉄道使用料は足かせになっている。会社を支えているのは社員一人一人である。国労のスローガンである「つくる職場に労働運動を」は職場からの闘いが重要という事。団結とお互いに考えをまとめ同じ方向に進むこと。

一人はみんなのために、みんなは一人のために。日常的な会話などを糸口に解決の方向性を相談し行動することが組合活動。要求を出すための運動、要求を実現するための運動が必要。

各現場で人が足りずに業務継承が出来ず、若手社員は理不尽な業務を押し付けられても抵抗できない。本音を言うところが無いのが実態。国労が進んで話を聞くことが必要。

組織拡大行動は国労組織が誕生した時からの運動であり組織が財産。なぜ自分が国労でいるのかを訴え、会社組織の一つとなった社友会では要求は通らないことを訴えよう。

今一度組合員の力を貸していただき、運動の前進という到達点に向けて進んで行こう。

◇ストライキ権確立一票投票は9名中8名賛成(1名は不幸があり早退で白票)

◇機関紙表彰では秋田総合車両センターと横手連合分会が受賞。

◇運動方針・

大会宣言案

採択

◇佐藤浩一委員長の声
頭で「団結
ガンバリ」
三唱。



佐藤委員長挨拶 (要旨)

大会にお集まりの関係者の皆さん、執行委員会を代表しご挨拶をします。



現在、新型コロナウイルスの感染者は落ち着きを見せませんが、いつ第6波が来るか油断できません。

最重要課題は組織の強化・拡大です。ここ数年秋田地本は組織拡大がありませんが、待ったなしの状況です。加入された組合員は職場で地道に国労加入を訴えています。若い仲間たちが自ら会社と向き合い、働きやすい職場実現に向け奮闘している姿を秋田地本全体で確認し、国鉄世代はさらに組織拡大に足を大きく踏み出していただきたい。

7月、東日本本部はJR東日本東北総合サービス(LiViT)と労使間の取り扱いに関する協約を締結しました。LiViTには多くの組合員が出向やエルダー出向していますが、労使間協約がなかったため支社を通じてのお願いに終わることが多く歯がゆい思いをしてきました。今後は現場で解決出来ない場合は、団体交渉ができるようになりまし。この労使間協約を武

器に、LiViTの労働条件改善を大いに取り組み、国鉄世代も組織拡大の取り組みを進めていただきたい。

「現業機関における柔軟な働き方の実現」について秋田支社は10月、統括センター、営業統括センターの新設を提案して、駅を交通の拠点という役割を超えて駅をつながる「くらしのプラットホーム」へと転換と言いますが、私たちが子供の頃、多くの駅ではキオスク、ソバ屋、伝言板があり、単なる汽車に乗る場だけでなく、それを含めてが駅が存在であり、地域とのつながりの中心でした。それを会社の施策で「交通の拠点」として無人化、機械化、自動化を進めました。作業ダイヤの柔軟化を前提に、人ならではのきめ細やかな対応とこれまでの役割分担にとらわれない柔軟な働き方を実現と説明しますが、駅の特性に合わせ臨機応変に対応できるのか疑問

具体的な交渉はこれからですが、地域や利用者の皆さんの声も反映できるように地域での共闘運動の取り組みも重要になると思います。

10月に総選挙が実施され、自民党が議席を減少させたものの、自公で絶対安定多数を確保しました。秋田では2区で野党候補が勝利し、1区でも敗れはしたものの善戦しま

した。小選挙区制での野党共闘は一定の成果が発揮されたと思います。

労働組合は働きやすい会社、職場を作るために運動をしつつ、安心して生活していける社会を作るためにも政治活動を切り離せません。来年は参議院選挙が予定。自公政権が進めてきた格差社会、国民不在の政治から転換が必要。議席を増やした日本維新の会は憲法改正についての提案を始めました。国民に依拠した健全な野党共闘に期待したいと思います。

私たちには組織の展望を切り開くための条件は確実に存在します。必要なのは、職場や地域で抱えている問題を一緒に考え、悩み、寄り添う事。労働条件改善などの取り組みを通じて国労への信頼を広げる運動づくりにかかっています。代議員の皆さんの真摯な討論をお願いします。



新執行部役員